

## 「キリストの言葉を聞くことによって始まる」

2018年10月10日

ローマの信徒への手紙 10章 14節～17節 ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

パウロは、「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです」と述べ、ユダヤ人とイスラエル人の区別なく、信じる者は誰でも失望することはない（救われる）と語った。これは、律法を守ったとか守らなかったとか、善い行いをしたとかしなかったとかに関わりなく、主イエスの十字架と復活を信じ、この方を「主」と公に告白する者は、義とされ救われるという福音であった。ところが、イスラエル人は律法を至上の価値とし、律法を守ることによって義とされると教え込まれていたので、パウロの語る言葉につまずき、受け入れることができなかった。一方異邦人たちは、自分たちの所属する宗教団体から厳しい戒律と重い自己犠牲を強要されていたから、パウロから、そのような戒律や犠牲は不要である、主イエスは信じる者であるがまま「義」とされると聞き、喜んで受け入れた。異邦人には解放の福音であった。

パウロはここで、「ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう」と言う。信じたことのない、聞いたことのない方を、どうして呼び求め、信じられようか。どんなに素晴らしい福音であっても、宣べ伝える人がいなければ、聞くことはできない。また、遣わされる者がいるから宣べ伝えることができるのである。「『良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか』と書いてあるとおりです」と、宣教者、伝道者に言及している。この言葉は、第二イザヤの「いかに美しいことか／山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え／救いを告げ／あなたの神は王となられた、と／シオンに向かって呼ばれる（イザヤ書 52：7）」からの引用である。バビロン捕囚から解放され、民は慰められ、エルサレムが贖われた喜びを伝える者の足を美しいと描写している。同時に、第二イザヤの「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」という言葉も付け加えている。これは、人の病と罪を神に執り成し、贖うために無残に葬り去られた「主の僕の歌」の冒頭の「わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか（53：1）」からの引用である。パウロは主イエスの福音に従わなかったイスラエル人の頑なさを、この言葉に込めたのである。

そして、「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」と、聞くことを力説する。信仰はキリストの言葉を聞いて、受け入れることから始まる。その者は主イエスを「主」と告白する信仰によって罪赦され、義（是認）とされ、神に根拠を置く、主体的な生き方をする救いに与るのである。